

## 白山 三方崩山～間名古の頭～野谷荘司山

田村 他

【日時】 2009年12月26日(土)～30日(水)

【メンバー】L田村、佐貫、棚橋

恒例の年末山行、今回は越後組のお二人が私に合わせてくださり、白山周辺に行くことでまとまった。ルートはいろいろ悩んだ結果、三方崩山から厳冬期の白山本峰を目指そうと考えた。最大9日間の計画であったが、特にデポはせずに臨んだ。

### 12/26 曇り後時々晴

夜行バスで砺波へ、さらにタクシーで平瀬の道の駅へ。一か月前の下見では秋の景色だったが、数日前のドカ雪でしっかり雪山になっていた。支度のうちに小雨も上がり、いよいよ出発。国道からすぐ除雪もトレースもなく、スノーシューを履いて進む。林道終点から樹林帯の浅い窪状を上がる。雪崩は大丈夫そうだ。1000mより先は基本的に尾根通し。夏道はトラロープや鎖が部分的にあるような斜度だが、これくらいならスノーシューは問題ない。ただいかんせん荷物が重い。三方崩山を越えることはできず、核心部手前の1730m付近で泊まることにする。(田村)

重荷・重雪に苦しんだ一日。来年はもうこんなことは出来ないな。天気は良かったけどとにかく疲れた。明日はどうなるのか？(佐貫)

1ヶ月前とは打って変わって白い世界。荷物が重いし足が出ない。おだやかな今日に予定通り進めないのはつらいな。(田村)

予想外の好天に恵まれ、9日間の重荷でのラッセルに苦しめられたものの、何とかここまで上がることができた。明日は間名古の頭を目指して頑張ろう。(棚橋)

### 12/27 快晴

土日の山行なら一晩泊まればすっかり軽くなる荷物も、予備日を含め1週間以上とあっては二日目でも何ら初日と変わる気がしない。ただ、背負って歩いて下ろして休んでを1日繰り返したためか、前日と違ってザックに背負い投げを食らうことはなくなったか、と思いながらの出発となる。幕場を後にすると間もなく麓の平瀬の町もさようなら、という感じで周囲の風景も変わってきた。湧き立つ雲海を足元に歩き始めると、幕場のすぐ上では少しだけ急な登りがあり、最後の一步はよいしょと掛け声付きで這い上がる。その先、



左手はやや切れ落ちた尾根だが、危険を感じるほどでもない美しい雪稜がずっと西に向かってのびていく。ガイドによれば「狭い尾根」とのことだが、積雪が十分あるお陰で何の支障もなく進めた。足首から脛程度のラッセルで田村さんと棚橋さんが競うように先にトレースを刻んでいる。三方崩山に向かって尾根が南向きにカーブする直前では、クラスト気味の急な下り斜面があり鎖が雪面に顔を出していた。スノーシューを履いていたので私はガンガン蹴り込みながらバックステップで下りたが、田村さんはさすがにスノーシューに慣れているだけありスタスタと行ってしまった。

三方崩の山頂には9時半過ぎに無事到着。地図で見る通り船の甲板のように細長いピークで、どこが最高点なのかよく分からない。想像していたよりも山頂にはたくさん木が生えていて、白山の主稜線のパノラマが見渡す限り広がるのは少し下ってからだった。



厳冬期では望めないような快晴の天気で、大汝峰など白い高みがすごい迫力で並んでいる。これを眺める田村さんはよだれが出てきそうな顔をしていた。

奥三方岳までの登山は鞍部から標高差210m。見通しが良い分、余計に高く感じられてならない。一度下って登山というあたりが、三ツ石から一旦下って永松山までの登山を思い出させる。ようやく山頂に辿り着いてみると、大学ワングル部が設置したものだろうか、木の上に赤い文字のかわいい看板がくりつけられていた。ますます近づく間名古屋の頭、しかし直下にはやや急な無木立の斜面が見えて少し心配になる。そして奥三方と間名古屋の頭の間にはまたまた何度と無く下りと登山が繰り返されることがくっきりと見えている。好天を喜ぶ二人をよそに一人、気が遠くなる私であった。

締まった雪とはいえそれなりにラッセルはある。1980m鎌ヶ峰を過ぎた辺りでは大物の装備を担いでいた田村さんにさすがに疲れが見えてきた。しかし翌日は悪天の予報ということで何とか進めるうちに進もうということで、c1822mの一つ先のポコまで頑張った。幕とした。(佐貫)



今日も重荷によるけながらノロノロの歩き。背丈ほどの落とし穴に二度も落ちた！冬の白山とは思えないような好天が、少し早めのお年玉？(佐貫)

今日も一日好天。ザックは相変わらず重いが気持ちは軽く、気分良く歩けた。明日は天気が崩れそうだが頑張ろう。(棚橋)

晴れた白山をこんなに間近で見られるとは。でも今回も山頂には行けなさそう。白山は遠い。いつ立てるのか。(田村)

12/28 雪

予想以上の好天から一転して、いよいよ今日は冬の天気となった。今朝は、大汝峰にアタックするのか決めなければならぬ。先程聞いた最新の天気予報でも、これまでの予報から大きな好転は望めなく、31日から年始にかけての強い冬型気象を報じている。リーダーはメンバーの体調やモチベーション、今後の天候の外様々な状況を鑑み、「大汝峰のアタックは諦めるが妙法山から白川郷に縦走は行う」との決断を下した。



地形図および遠望より、間名古の頭までに急登が有ることを再確認して出発する。相変わらずのラッセルを続けて行くと、やはり雪壁状が現れる。先頭の田村さんは下部も微妙な場所だったので慎重に進む。そしてセカンドの佐貫は、アイゼンにした方が良いかもとのアドバイスに従い、セルフビレイを取って履き替える。またラストの棚橋の所からは灌木が使えるそうだったので、そのまま直上する。結果的には、雪が深くてアイゼンでは物凄く大変だったようだ。

視界の効かない間名古の頭を特定した後、北北東に進む方角を変える。シンノ谷の源頭である三俣峠付近から緩く沢形を下降する予定であったので、間名古の頭北東部のジ



ャンクシオンピークから北縦走路に続く左側の尾根に入る。少し進むも、尾根が細い上に小さな起伏が多く意外と手間取る。また、この雪の状態や降雪量で沢を下降することなど、とてもじゃないが気が進まないなと思っていたところ、対岸に見える念仏尾根(県界尾根)上部は地形図から想定していたより険しさを感じない上に、ずっと木が生えているではないか。そこで、そちらの尾根を下降

することを決め、登り返すことにする。相変わらず雪は降り続けているが、幸い視界もそこそこ得られたので、容易に東側の尾根に移ることができた。

尾根の東側に出ているであろう雪庇を避けるために木々を縫い、また尾根の左側をトラバース気味にルート取りしながら進む。この下りでは「落とし穴」に悩まされ、その都度先頭交代を強いられた。好い加減下降し、右に廻り込む辺りまで達すると尾根が広がったので、風が避けられる場所が求められたところで今日の行程を終了した。(棚橋)

予報よりはましな天気。でもテントの中はバリバリに凍って寒い！冬山らしい一日でした。(佐貫)

冬の風雪に叩かれ、早目に入ったテントで大人の会話。冬山、いいね。やっぱり。(田村)

ようやく冬山らしい天気を迎えられた。大汝アタックは断念したので、白山郷までの縦走が目標だ。(棚橋)

12/29 快晴のち曇り



今日も素晴らしい天気。針葉樹林を抜けコルを登り返すと、正面に笈ヶ岳、振り返ると白山本峰がひときわ輝いている。まるでゴールデンウィークのようだが、真冬の青空はずっと濃く、山はずっと白い。東には北アルプスが端まで見え、西の山の間には海が光る。数時間の稜線散歩を楽しみ、野谷荘司山に着いた。後はのんびり下るだけと思っていたが、最後に思わぬおまけがあった。なんと予想以上のきれいな雪稜だったのだ。今回初めてアイゼンに履き替え、

みんな大喜びで下る。樹林も出てきてもう大丈夫というあたりで最後の晩を過ごすことにする。正面に劔岳と月、眼下には白川郷が見えて最高のロケーションだ。残った食料でぜいたくな晩を過ごす。(田村)

今日は何とんでも野谷荘司からの下りがハイライト。あんな綺麗な雪稜とは・・・。白山、やるじゃん。(佐貫)

GWのように距離かせぎました。今夜は白川郷の合掌集落を眺めつつ最後の晩。(田村)

今日もまた天候に恵まれ、行程がはかどった。本峰は今後の課題だ。(棚橋)



12/30 曇り

冷たい風がビュービュー吹く中、明るくなってから下山にかかる。もう、スノーシューでスタスタ歩いていけばおしまいだったらいいな～と思っていたが、出発後まもなく急斜面となりアイゼンに履き替え。嫌な感じのトラバースが一箇所だけ(5m程度)あったが、そこが最後のスパイスというところだろうか。標高が下がり、深雪よりもかえって歩きにくい「薄皮モナカを踏みぬくと更にその下に堅い層のある二重モナカ雪」となった。スノーシューで人のトレースの上を歩くと、下の堅い層で滑ったりするので、トレースが重ならないようにしなければならない・・・意外に疲れる下りである。次第に人工物が見えてきたと思うとほどなくトヨタ自然学校の建物があり、除雪された道路に着いた。本当はここにタクシーを呼んでしまえば楽だったのだろうけれど、何故かそのままスーパー林道を歩いて白川郷へと向かう。竹竿をくりつけた大きなザックを背



負い、物々しいでたちの私たちは世界遺産・白川郷では全く場違いだったようで、数多い外国人観光客が「オウ」と驚きの声をあげながらすれ違っていった。棚橋さんは「その赤い布のついた竹、何に使うんですか？」と聞かれたとか（外国人にではない）。

白川郷にあるとは思わなかった日帰り温泉でさっぱりした後は、合掌集落巡りの観光客と共に路線バスで城端に出た。駅で時刻表を調べ、真剣に検討した結果、「どうせお金を使うなら交通費より地元に戻元！！（要は飲み代を増やしたかっただけ）」ということ帰京は青春18きっぷ利用に決定。富山に出てビジネスホテル（朝食付・一人4000円）に投宿し、プラブーツ履いて夜の街へ打ち上げに繰り出したのだった。（佐貫）

朝から冷たい風。標高に似つかわしくない寒さだった。なかなか楽しい尾根を下り、下界へ。5日間お疲れ様でした。（佐貫）

冷たい風の吹く中での行動であったが、天気は案外良かった。途中アイゼンを必要とした箇所もあったが、無事下山できて良かった。（棚橋）

無事下山できて何より。ただ、麓で泊まれないのは残念。（田村）

### 【感想】

○年末年始のように大きな山行は、早い時期にパーティーを作り話し合いや偵察、準備にあてる時間を十分に持って臨みたいと思う。今回もそのような考えのメンバーが集まって行えたので、まだ山域としては不慣れな白山でも安心感があって楽だった。重荷に苦しみあまりラッセルで活躍できなかつたり、体調調整がうまく行かなかつたりとメンバーには色々と迷惑をかけたが、もしまたパーティーを組んで行くことがあればその時には今回の課題を解決できるよう、トレーニングを重ねて行きたい。（佐貫）

○計画通りの行程は完遂できなかったが、予備日を含めて9日間の装備を背負い通しての行動が取れたのは、大きな自信となった。また天候については考えていたより恵まれた感はあるが、想定より悪かった場合でも準備や計画に従い対応していきよう、精進していきたい。（棚橋）

○この時期に予想もしなかった連日のいい天気。一瞬でも晴れて見られれば、と思っていた景色があまりにあっけなく見放題というのは却ってさびしいなあ・・・なんていうのは贅沢ですよ。ほんとうにきれいでした。また計画しますので、他の方もぜひ一緒に行きましょう！それと、こんな長い山行にお付き合いいただいたお二人には、ただただ感謝です。



【行程】

- 12/26 平瀬登山口 (7:30) ~ Co1730m C1 (14:50)  
12/27 C1 (7:00) ~ 三方崩山 (9:35) ~ 奥三方岳 (11:40) ~ Co1860m C2 (15:15)  
12/28 C2 (7:00) ~ 間名古の頭 (10:35) ~ Co1800m C3 (13:00)  
12/29 C3 (6:35) ~ 妙法山 (10:00) ~ 野谷荘司山 (13:10) ~ Co1450m C4 (15:30)  
12/30 C4 (6:35) ~ 馬狩 (8:35) ~ 白川郷 (9:35)

【地図】 平瀬、新岩間温泉、中宮温泉、鳩谷

【概念図】

